

静岡市内では梅の花が咲き、春はすぐそこまでやって来ました。

今年の春の選抜甲子園には浜松工業高校が連続出場します。昨年は甲子園の雰囲気にもまれ実力を十分に発揮できませんでした。そこで今年内山監督は選手自身が強い心を持つようにと次のように話しています。

「心が変わると行動が変わる。

行動が変わると習慣が変わる。

習慣が変わると人格が変わる。

人格が変わると運命が変わる。」

人は自分の力ではどうしようもない出来事にぶつかったとき「運命」だとあきらめがちですが、監督の言葉を借りれば「運命」はその人の心を作っているようです。

< 第 2 0 回 ほほえみの会 >

新しい方 3 人を含む 1 5 人が参加しました。

最近入院された方はまだショックは大きいようです。

みんな同じです。

不幸を一人で背負い込むのはやめましょう。

今の医療、そして明日の医療を信じましょう。

きっと治ります。

一番つらいのは病気と闘う子供です。

その子が一番ほしいのは安心して甘えられる親の笑顔です。

心で泣いても顔で笑って、笑って...

一緒に頑張りましょう。

インフルエンザが流行っています。病気を持つ子供の親としては特に気にかかります。最近退院したばかりの子も風邪を引いて近くの病院で診てもらうのにかえって病気をもらってしまわないか心配になるとのことです。その病院では診察室とは別の個室で診察をしてくれるとのことですが、病院に行くも心配、行かぬも心配。心労の種は尽きません。春がすぐそこまで来ているとはいえまだまだ寒い日が続きます。家族みんなで健康に気をつけましょう。

治療で髪の毛が抜けカツラをつけて学校に通っていた 5 年生の女の子が宿泊訓練を前に自分からクラスの友達の前でカツラをはずしたということです。本人のその勇気も立派ですが、クラスのみんなも彼女を支えてくれたといえます。子供の意外な強さに驚きます。と同時に身体的にも、精神的にも辛くなりがちな学校生活の中で、支えてくれたクラスメートと先生がありがたい。

病気を持つ子にとってはそんな「心のボランティア」が大切で、もっともっと育ってほしいとお母さんはおっしゃっていました。

A 2 病棟の酒井さん、外来の加藤さん、お 2 人の看護婦さんも参加して下さいました。病棟の看護婦も親の悩みとのギャップを感じることもある、また外来では忙しくてなかなかお話を出来ない、とのこと。何れも出来るだけお話をしたい思っているのも何かあれば気軽に声をかけてほしいということでした。

次回のほほえみの会は 3 月 9 日 (日) 1 2 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一